

教職支援センター活動報告③

—教育者・保育者を目指す学生の育成と就職を支援する—

落合幸子
(教職支援センター特定教授)

1 はじめに

令和5年4月に、「こども家庭庁」が発足し、子どもを取り巻く多くの行政分野が厚生労働省や内閣府から一元化し(文部科学省とは連携)、「こどもまんなか社会」の実現に向けて、こども政策のさらなる推進が目指されている。また、6月には「こども基本法」が成立した。この法律では、「こども」の規定が年齢ではなく、「心と身体の発達の過程にある人」とし、全てのこどもが将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現のために、こども大綱の策定やこども等の意見の反映などについて定めている。そういう意味で、将来を担う学生の役割の大きさや活躍を大いに期待しているところである。

また、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を目指し、文部科学省では、令和4年12月に「令和の日本型学校教育を担う教師の養成・採用・研修等の在り方」中央教育審議会の答申が出されている。

子どもたちの教育・保育の分野への就職を目指す学生たちへの支援に携わる仕事も2年目を迎えた。「質の高い」教師の養成がますます求められている。教職支援センターの特定教授の役割は何なのか、手探りで駆け抜けた1年目から、教職課程の授業と教職支援の活動とバランスの取れた仕事ができるようにと模索した2年目は、昨年の反省を踏まえどのくらい実践できたのか、また新たな課題とその改善に向けて、特定教授3名で折につけ連携をしながら進めてきた今年を振り返る。

2 昨年度の反省と課題

- 教職支援センターの業務の全体像や細かい事務内容などはまだまだ把握しきれておらず、学生の問い合わせに戸惑うことも多かった。学生に教職支援センターを有効に活用してもらうためにも必須である。また、保育・幼児教育への就職を志す学生をもっと利用できるような環境を整えたい。
- 今年度は、副センター長である特定教授が1名交代したこともあり、昨年度は正式には開催できなかった「教職支援センター会議」を定期的に開催し、その都度の状況や課題の確認・意見交流を行うこと、事前に支援センター事業について計画を立てることを行っていく。
- 自治体の職員採用試験はその年々によって日程が変わることも多々あるが、昨年度の4回生が受験した自治体を中心に、各試験日程を一覧表にし、学生の受験準備や指導に役立たせたい。
- 幼児教育・保育を学んだ学生のうち、どのくらいの学生が公立園に就職したのか、そのうち独学で合格した人が何人くらいいるのか、また私立園(幼稚園・保育所・認定こども園)や民間施設(養護施設・発達支援施設・障がい者施設等)や企業を選んだ人数等全体像も把握しておきたい。
- 授業については課題の出し方やフィードバックの方法、教育・保育実習指導における学生や実習園との関わり方、ポータルやメールを利用した学生との連絡やフォロー等、限られた出勤の範囲で行うことは難しいが、細やかでありながら効果的かつ効率的な方法を可能な限り追及していきたい。

3 昨年度の反省を踏まえた取り組みについて

(1) 幼保就職を目指す学生の就職支援

幼保就職を志す学生にとって、教職支援センターは「教員採用選考試験」を目指す学生が利用する場であると捉えている感がある。幼稚園・保育施設、公立園・私立園を問わず支援をしていることをアピールすること、また、その対策の違いをもっと浸透させたいと考えた。

- 教員採用選考試験と異なり、市町村職員採用試験となる自治体の試験は情報の収集が難しい。
 - ・「公立園試験対策シリーズ」本を購入してもらい、実施要項の確認や「専門試験」対策にする。また「公務員試験」ではなく、SPI試験やSCOA試験を課す自治体が急増している。その勉強を早めに始めることや、対策本も提示していきたい。
 - ・昨今は「専門試験」を実施しない自治体も多いこと、2次試験以降の詳細な試験内容や実施日は合格者のみに直接通知される。昨年度の4回生が受験した自治体を中心に、キャリアセンターに届いた自治体の「職員採用試験実施要項」も参考に、学生アンケートや自治体HPを入念に調べて、近畿地方2府6県、東海地方や中国地方の一部の県における『自治体採用試験状況（1次試験～3次・4次）』一覧表を作成した。
 - ・アンケートの記載内容や様式を再検討し、後輩学生が知りたい内容がよりわかりやすいアンケートへと変更していく。また、可否に関わらず、教職支援センター利用者には回答の協力を促す。
- 幼保就職を目指す学生への試験の流れや対策についてPDF資料の作成。
 - ・幼稚園、保育施設、認定こども園への就職、公立園と私立園、選び方のポイント、公立幼稚園を目指す時の受験の2方法、自治体職員の採用の形、募集と申し込み、試験内容、試験対策等について説明をした。
 - ・今年度は教育学専攻の3回生からの幼保就職への関心もあった。その対策としての「保育士試験」対応の本も揃え、合せて指導していきたい。
- 幼児教育・保育を学んだ学生の就職状況を知り支援に繋げるために、学科の就職支援担当の教員との連携が大切だと考え、今年度は積極的に交流を行った。
- 「教職応援セミナー」への2回生・3回生への参加を促した。
 - ・昨年度、幼保を受験する学生の参加は非常に少なかった。このセミナーは私立園を受験する学生にも役立つことをPRし参加を呼び掛けた。

(2)効果的な教職支援の方法について（大学推薦者への課題も含めて）

昨年度、大学推薦者の中で残念ながら2次試験を突破しなかった学生は、教職支援センターを利用していないという実態があった。そこで、今年度は積極的な活用を促した。にも関わらず、今年度も芳しくない結果となった学生の教職支援センターの利用実態を、他の特定教諭が調査した結果、教職カウンセラーによる文章添削や面接の対策は数多かったものの、特定教授による模擬授業や場面指導が受けられていなかったという事実が明らかになった。これを改善するにはどうしたら良いか。

- ・昨年度の反省を踏まえ、今年度は4月から「集団面接」「集団討論」のセミナーを行った。幼保の試験もコロナ感染症5類への移行を受けて、集団面接やグループワークを再開させる自治体が増えることも予測される。既に集団面接を受けることがわかっている学生には参加を促した。また、幼保の学生で集団面接を受けたい学生に声をかけ、幼保のテーマでの実施ができるようにした。
- ・教職採用選考試験について、今年度6月に特定教授と教職カウンセラーで情報交換の会議を行っている。1次試験は概ね6月～7月実施、2次試験は8月～9月初旬である。
- ・大学推薦者は1次試験が免除されるので、早くから2次試験対策に取り組めるはずである。
- ・教職カウンセラーは5名中3名（常勤1名）の出勤、教採を担当する特定教授は1名は常勤、1名は3日勤務である。特定教授は前期は特に多くの授業を抱えており、学生からの予約を教職カウンセラーに代行してもらったり、やむなく断らねばならない状況もあった。これは本来の特定教授の役割が果たせない事態である。また対策内容やカウンセラーか特定教授かの指名については、現在は学生からの要請に基づき受けている。
- ・学生相談を受ける学生には全員「相談カルテ」を作成している。この相談カルテに試験日までの「個人面接」「集団面接」「集団討議」「小論文添削」「場面指導」「模擬授業」に関するスケジュールを組むシートを作成し一目瞭然にする。まずは、大学推薦が決まった学生には、該当の学生であることを明記し、順次事前指導を行う。進捗状況や特に強化すべき学生については、カウンセラーと特定教授が、常々情報共有を行うのはどうか。複数受験を行う学生、途中で志望先を変える学生は、その都度修正が必要になるケースも生じると予測できるが、模擬授業や場面指導、実技指導が受けられているかどうかの点検は、学生自身も自覚を持ってほしい。
- ・だとしても、カウンセラーと特定教授が別室に配置されている、最も忙しい時期に特定教授の時間が不足し

教職支援センター活動報告③

ている、訪ねてきた学生と膝を付き合わせて個人相談をするスペースや個室もない、現在の状況は非常に芳しくないと言わざるを得ない。

- ・8月の出勤について、特定教授と教職カウンセラーの休暇により、十分な指導日を確保することが難しかった。この時期は教員採用選考試験や、幼保の多くの自治体職員採用試験が2次試験前だったため、7月の申し込みを促していたが、8月入って予約を入れる学生もいた。これは1次試験の結果が7月下旬～8月初旬にわかることによる。来年度は、このような日程を十分に踏まえて体制を整えていく必要を痛感した。年度の早いうちから、日程調整を配慮すべきだったと反省する。

(3)教職支援センター会議

表1 教職支援センター開催表

日時	参加者	内容
6/8 (木)	カウンセラー、事務、特定教授	教職応援セミナー、採用選考試験
8/3 (木)	事務局、特定教授	学生対応、大学推薦反省会、連絡事項
9/14 (木)	カウンセラー、特定教授	フォローアップセミナー
10/12 (木)	センター長、事務局、特定教授	教職課程ハンドブック2024
11/7 (火)	事務局、特定教授	新入生向けパンフレット

- ・7月12日分が1度延期になった以外は6月からほぼ月1回のペースで開催できた。しかし、事務局の尽力によるものが大きく、まだ主体的に参加できなかったことを反省している。年明けには、来年度に向けて年間スケジュールや、課題解決に取り組めるものから順次計画的に始めることを提案していきたい。

4 今年度の教職支援活動

(1)相談利用状況

昨年度の反省を踏まえて、今年度は支援が進んだのか、また今年度の傾向はどうだったのか検証をしたい

表2 4回生月別相談利用数（採用試験対策）

と思う。	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
実数(人)	1	4	7	9	7	11	8	8	4	2	4	65
延数(人)	1	9	19	13	13	14	17	10	5	2	4	107

- ・4回生の受験自治体は、奈良県(生駒市、奈良市、大和郡山市、橿原市)、兵庫県(神戸市、西宮市)、京都府(京都市、亀岡市、京田辺市)、大阪府(大阪市、吹田市、豊中市、箕面市、池田市、高槻市、枚方市、大東市、和泉市、四条畷市、寝屋川市、守口市)、滋賀県(長浜市、野洲市、守山市、草津市)、東京都で、今年度はほぼ関西圏だった。
- ・教職支援センターを利用し、最終私立園受験者は9名、公立園を受験した学生は13名だった。
- ・学科は児童学科の学生がほとんどで、教育学科の学生は2名だった。
- ・自治体の公立園の受験は、4月～7月の春夏に1次試験が始まる自治体と、9月～10月の秋に始まる自治体がある。今年度の4回生は、ほとんど春夏の受験を目指す学生だった。秋までに就職を決めたい学生が多い印象だった。
- ・そんな中、9月に1次試験が始まる自治体を受験し、みごと合格を勝ち取った学生がいる。この学生の努力の姿は今後の学生にも伝えていきたい。
- ・また、特筆すべき事例として、教採試験の残念な結果の後、地域の自治体の幼保の採用試験を受けて合格した学生がいる。本人は「今からでも間に合うのか」と不安を抱えていたが、教採試験に向けての努力や実力が活かされることを伝えた。このようなチャンスもあることも伝えていきたい。
- ・公立の幼保への就職を目指す学生は、教採を目指す学生ほど多くないこともあり、教職支援センターの利用状況はほぼ把握できることもあり、教職カウンセラーと連携を取りながら、それぞれの専門性を生かした指導ができたのではないかと思う。
- ・ただ、エントリーシートの添削を何度も求める学生もおり、エントリーシートも大切だが、面接の際に自分の言葉で直接自己PRができることをもっと伝えるべきだったと思う事例がある。文章添削には教職カウンセ

ラーも多く時間を費やしている。どのあたりまでエントリーシートに完成度を求めるのか、程よいタイミングで伝えるのも特定教授の役割だと感じた。

- ・補欠合格となった学生からは、合格の可能性はあるのか、いつまでを目安に待つのか、私立園の併願をどう考えるのか等の相談を受けた。

表3 2回生・3回生別進路相談利用数（進路相談）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
3回生実数(人)	1		1	1		1		4	5	13
2回生実数(人)						1			1	2

- ・進路相談を利用した3回生・2回生は、東京、横浜、静岡、愛知、名古屋、三重、神戸など広範囲の自治体受験を希望していたり、教採試験を志す学生もいるので、さらに情報収集をしていきたい。
- ・今年度は、教員採用選考試験で幼稚園教諭を受験する学生は、3回生の秋には受験対策を行う体制を始めた。この形での受験を志す学生への今後の継続的な支援をしていきたい。
- ・また、11月、12月から3回生の進路相談が増えてきた。この流れを1月～3月に繋ぎ、3回生からの準備の大切さと対策を指導していきたい。
- ・実習についての相談もあった。学生の実習評価等について学科の先生と連携しながら行うことが大切だと思った。前任の担当者が「実習相談」も行ってたことから、次年度はさらに積極的に受け、実習での良い経験が幼保就職への意欲に繋がるようにしていきたい。

(2)教職応援セミナー

【開催について】 昼休み時間（12:10～12:40）に実施。予約不要。京女ポータルにてお知らせ。

【準備】 「開催のお知らせ」作成。学生は「教職課程ハンドブック」持参。

【今年度の特徴】 昨年度は、2回生対象と3回生対象に日程を分けていたが、教員採用選考試験が大学3回生から受けられる自治体が増えてきた現状に対応するために、全7回中6回を2回生・3回生を対象に実施することとした。日程も2023年内に実施した。

【講座日程と内容・参加人数】

表4 教職応援セミナー開催実施状況

回	日程	講座名	講座内容	参加人数
1	6/29(木)	教員採用選考試験に向けて ～今から準備すべきこと～	・見通しを持つためのスケジュールリング ・エントリーシートの実際	84名・72名 計156名
	7/6(木)			3回生95名・2回生61名
2	7/13(木)	教育現場で学ぶこと・学んだこと ～様々な経験を教職への道に～	・振り返り ・今しておきたいこと	57名・51名 計108名
	7/20(木)			3回生62名・2回生46名
3	7/27(木)	2回生までの振り返りと今後の課題 講師：教育学科 村井尚子教授	○教職課程ハンドブック ・振り返りと、リフレクションシート	3回生33名
4	9/21(木)	自己分析・自己PRを考える ～自分の良さを伝えるために～	○教育現場での学びから ・自分を知らう（長所・短所、得意・不得意を分析）	40名・41名 計81名
	9/28(木)			3回生61名・2回生20名
5	10/12(木)	あなたが目指す教師像 (自治体研究も含む)	○あなたが、子どもたちが、保護者が ・理想とする教師とは・信頼される教師とは	28名・25名 計53名
	10/19(木)			3回生41名・2回生12名
6	11/9(木)	覚えておきたい基本マナー ～教員採用試験に向けて～	○身だしなみ・立ち居振る舞い・言葉遣い等	34名・15名 計49名
	11/16(木)			3回生42名・2回生7名
7	12/7(木)	面接・集団討論・模擬授業等 ～思いを伝える～	○各々のねらいを理解した思いの伝え方 ○試験で課される模擬授業・実技試験	22名・26名 計48名
	12/14(木)			3回生42名・2回生6名
				全体合計：202名 3回生130名・2回生72名

教職支援センター活動報告③

【フォローアップ講座】 第4回～7回のセミナー後2回ずつ実施 3時限

表5 フォローアップ講座開催状況

回	セミナー日程	フォローアップ講座日程	講座名	参加した講座 (落合)
4	9/21(木) 9/28(木)	9/25(月)・9/27(水) 10/2(月)・10/4(水)	自己分析・自己PRを考える ～自分の良さを伝えるために～	10/4(水) 8名
5	10/12(木) 10/19(木)	10/16(月)・10/18(水) 10/23(月)・10/25(水)	あなたが目指す教師像 (自治体研究も含む)	10/25(水) 4名
6	11/9(木) 11/16(木)	11/13(月)・11/15(水) 11/20(月)・11/22(水)	覚えておきたい基本マナー ～教員採用試験に向けて～	11/22(水) 2名
7	12/7(木) 12/14(木)	12/11(月)・12/13(水) 12/18(月)・12/20(水) 1/10(水)・1/12(金) 1/16(火)・1/18(木)	面接・集団討論・模擬授業等 ～思いを伝える～	12/20(水) 8名 1/10(水) 予定 1/18(木) 予定

- ・教職応援セミナーは、回を追うごとにより実際の試験に関わる内容になるが、参加者は減る傾向がある。人数だけでは判断できないが、備えや実践力により効果をあげるセミナーの実施方法を考えていきたい。
- ・動画配信など、今の時代に応じた方法をもっと取り上げていくのはどうか。
- ・参加者名簿をもとに、教職の道への各自の備え等を把握していき、教職支援センターの利用や進路相談の参加を呼びかけていきたい。
- ・フォローアップ講座は参加者が少ないのが残念である。90分の時間帯でじっくり受講できるので、日程や時間帯も含めて再考していきたい。

5 教職課程科目の授業等における教師・保育者養成の活動

高い資質を持った教員・保育者を養成し社会に送り出すのは大学の重要な使命である。今の学生にとって必要な知識や学びを伝えていきたいと今年度も授業づくりを行った。

①「幼児教育論」

教育学科の学生15名が受講。多くの受講生は、幼稚園や小学校教諭の免許取得を目指している学生だった。幼児の発達を踏まえた教師の関わりや就学前教育の基本について学ぶことで、小学校教諭や特別支援教育を志す学生も、乳幼児の発達や幼児教育と学校教育の連続性や接続について理解を深めてもらうことを目標とした。また、保育制度の変遷や社会情勢を学ぶことで、現代の教育現場や子育て支援の課題についての見識や関心をもってもらうことも目指した。選択科目ではあるが、幼稚園実習に行く教育学科の学生には受講してもらいたいと呼びかけ、「教育実習論Ⅱ」の学生が積極的に参加してくれた。

②「教育実習論（幼稚園実習）」

児童学科の幼稚園実習を行う学生が講義と演習、また教育実習を通して、幼児および保育者について理解を深め、幼稚園教諭に求められる幼児教育の理念と方法、専門的な知識を理論と実践の両面共に習得することを目標としている。4回生に1回、3回生に5回、2回生に2回実施している。児童学科の教授のリーダーシップのもと、教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱの実習前や実習後の指導を行った。また、児童学科の多くの学生は、保育士資格の取得をめざしているため保育実習も行う。双方の実習により、学生が自身の課題を明確にする指導も大切にした。よく準備をして実習に向かうことは実習に対する基本的な姿勢である。

各学年約100名の学生が、指定幼稚園であれば50園近い私立幼稚園に配当される。全国的に幼稚園(公立・私立・附属等)の割合は約67.5%が私立幼稚園と言われている中、それぞれが異なる建学の精神や教育理念を持つ幼稚園で実習する学生にとって、自身の実習園での学びもさることながら、実習後の振り返りをグループワークし、様々な幼稚園の様子や同期の学生の学びを知ることや交流することは、学び合いの精神を持つことは勿論、将来の教師像を描き、働きたい職場への展望を持つことにも繋がり大変有益である。この授業に関わるのは2年目だが、学年ごとの課題も見えてきたので、学科と連携を行っていきたい。

③「教育実習論Ⅱ」

教育学科の学生で、幼稚園実習を行う3、4回生13名への授業を担当した。母校実習（小学校実習）・幼稚園実習での授業・保育実践力の向上を目指し、教育実習における「授業・保育観察」及び「授業・保育実践」を行う上で必要となる教師としての「資質・能力」の育成をテーマとしている。教育学科の学生は様々な教育現場での実習を経て、将来どこの教育機関（あるいは企業）で働くかの選択過程のひとつではあるが、幼児教育機関での実習で幼児教育の大切さを実感して将来の道に繋げてほしい。4月～5月半ばに4回の授業を実施したが、5月早々に実習が始まる学生もいたので個人指導を行ったケースもある。また、幼稚園見学もしたことがなく、幼児の発達の様子もわからないまま実習に向かう学生も多かったので、授業外で附属幼稚園の見学をさせていただいた。それにより幼稚園実習のイメージが持てたようだ。来年度は教育実習開始までに授業の一貫として行っていきたい。

④「教育実習論〈共通〉」

今年度は標記の授業も担当した。土曜日のLMS授業を中心とした中学校・高校で音楽科の実習を行う4回生の授業である。教育課程の授業を担当する特定教授とはいえ、専門外の教科ではあり戸惑ったが、実践力を備えた4回生であり、互いの学び合いを中心にシラバスに沿って全8回の授業を行った。平日に他の特定教授の授業を受けられる学生もいたので調整を行ったり、LMS授業と対面授業を半数ずつ組んだ。

来年度も選択肢を持たせた土曜日授業の設定を続けるかどうかの検討は是非行っていただきたい。

⑤「保育・教職実践演習」

児童学科の4回生の幼稚園教諭免許及び保育士資格の認定のための必修科目。

- ・保育者に求められる専門的知識及び技術、判断力、対人関係能力、倫理観の形成などについて振り返り、自らの学びを確認し課題を明確化する。
- ・保育・幼児教育に対する使命感・教育的愛情を持ち、子ども理解に基づいた保育内容の指導力、適切な学級運営を行う力等を身に付けることができる。
- ・保育・幼児教育に関する現代的課題について分析し、保育者としての対応を考えることができることを目標としている。

実習における保育・教職の体験をもとにグループディスカッションを行い、自らの学びの振り返りを行った。2人のゲストスピーカーより幼稚園・保育園の実態と課題について講義していただいているが、今年度はゲストスピーカーの招聘にも関わり、保育者に求められる資質や能力、また、自らの保育観について考える機会にも貢献できた。保育に関する現代的課題について、4名の教員が2回ずつ実施し、グループワーク・グループディスカッション等により問題を分析するとともに、保育者としての課題解決への取り組みを考える授業を目指している。2回の連続授業のうち1回はLMS授業としたが、提出課題へのフィードバックをひとりひとりに丁寧にすることに努めた。

⑥「教職実践演習（幼・小）」

教育学科で幼稚園・小学校で教育実習を行った4回生の学生を4クラスに分け、各クラスを2名の教員がオムニバスで授業を行う。15回の授業のうち、合同授業2回とゲストスピーカー講演3回を除き、10回の各主題に応じた授業を行った。小学校を主眼にしたかのような主題名が多かったが、幼稚園現場でも小学校現場でも課題意識を持てるような内容になるように心掛けた。特別支援教育に進む学生もおり、それまでの学びから人権教育やインクルーシブ教育の視点を持った考察がなされていた。

グループワーク、ロールプレイング、フィールドワーク、グループ発表、プレゼンテーション等を取り入れ、様々な実践演習の形で行った。

ゲストスピーカーの講演は、実際の教育現場の取り組み事例を丁寧に教えていただき大きな学びとなっている。「保育者の専門性について」というテーマで、幼稚園の園長先生を招聘する機会を今年度もいただき、学生の幼児教育に対する意識や関心を事前アンケートで知ることでもできたので、来年度の授業に生かしたい。ただ、ゲストスピーカー講演に関しては、土曜日のZoom講演ということで当日聴講した学生は、全体の半数である。コロナ感染症も5類に移行したことであるので、来年度は可能な講師であれば、授業時間内に直接お聞きする日程も組み込んでいただきたい。

⑦教育・保育実習指導(児童学科)

事前指導、訪問または電話による巡回指導、事後指導を実施。実習の前後に、実習に向かう姿勢を確認したり、学生とのコミュニケーションをとることを大切にしている。各自の目標やオリエンテーションでの確認内容・注意事項を丁寧に伝えるようにした。オリエンテーションの結果をもとに巡回指導を行うので、きちんと報告してくることを徹底させたい。事後指導では、進路希望や次の実習についても励ましを行った。

学生への直接指導や関わりを持つ良い機会でもやり甲斐もある。また教育現場・保育施設現場の実情を知り、教職支援に役立たせることができるので、大変意義があると考えている。

オリエンテーションの内容を知ることで園の実習環境や、一人一人の実習記録を読みこむことで、実習生や実習クラスにもよるが、指定園においてどの程度の部分実習や責任実習を行わせてもらっているかの大きなデータを念頭におくことで、次年度以降の指導に役立たせることができる。

○教育実習指導 指定幼稚園実習…3回生7名(5園)、幼稚園実習…4回生6名(6園)

○保育実習指導 保育実習Ⅰ(指定保育所)…2回生12名(5園)

保育実習Ⅱ・Ⅲ(保育所・保育施設)…3回生7名(7園)

○施設実習指導 保育実習Ⅰ(指定施設)…2回生11名(4施設)

4 今後に向けて

今年度は教職支援の業務2年目ということで、自分の課題や教職支援センターの仕事について、他の特定教授から多くの学びを受けながら、自分なりの意見を述べたり積極的に関われることも増えた。

各自治体の受験状況を今年度もまとめ、来年度の支援に役立たせたい。

授業については課題の出し方やフィードバックの方法、教育・保育実習指導における学生や実習園との関わり方、ポータルやメールを利用した学生との連絡やフォロー等、限られた出勤の範囲で行うことはやはり厳しいが、効果的かつ効率的な方法を次年度も可能な限り追及していきたい。